

展覧会情報

この春以降開催される地図・地理・歴史に関する展覧会・展示会等についてお知らせします。

■古地図の世界—城下町絵図—

会場: 岐阜県図書館本館

電話058-275-5111

会期: 2006年2月18日～3月21日



■高野山古地図と地宝

会場: 高野山霊宝館

電話0736-56-2029

会期: 2005年12月12日～2006年4月16日

■村絵図の世界

会場: 徳島県立文書館

電話088-668-3700

会期: 2006年1月31日～4月23日

■地図で知るふるさとつくば～江戸から現代まで～

会場: 地図と測量の科学館

電話029-864-1872

会期: 2006年3月1日～4月16日



■さようなら交通博物館 旧万世橋駅遺構特別公開

会場: 交通博物館

電話03-3251-8481

会期: 2006年1月11日～4月28日(予約制)

交通博物館は2006年5月14日をもって閉館。2007年秋にさいたま市に「鉄道博物館」が開館予定。



平成17年度 第2回巡検

平成17年度第2回見学会(巡検)は平成18年4月15日(土)に開催予定(荒天予備日は22日)。

「江ノ島島内と水族館を巡る」

集合: JR大船駅 南口改札外 午前9時30分。

移動: 湘南モノレール 大船～湘南江ノ島州鼻通りを通り、海岸へ出て左折

見学: 新江ノ島水族館 午前10時頃～午前11時30分頃。

昼食: 弁財天仲見世通り周辺

見学: 左回りに島内巡検開始

稚児ヶ淵、龍恋の鐘、サムエル・コッキング苑、江ノ島展望塔、江島神社、ほか

解散: 小田急江ノ島線片瀬江ノ島駅 15時40分頃。

藤沢、新宿方面

江ノ島電鉄江ノ島駅 16時頃。鎌倉、藤沢方面

参加費: 3千円(水族館、コッキング苑入園料)。除く交通費、昼食代。

参加: 参加ご希望の方はお電話かFaxでご連絡下さい。追って集合場所や当日連絡先のお葉書をお送りします。



地図絡み

第24回 電車の線別塗色と同色路線図

井口悦男(帝京大学講師)

前々回、モスクワの地下鉄路線図から話をはじめたが、このようなカラフル路線図は、ロンドン、パリ、ニューヨークは当然、この日本の東京、大阪のほか、鉄道路線の集中する都市域で目に入る、身近かな案内図の代表と言える。

東京ではJRと地下鉄の2路線について、カラフル路線図が車両や駅の内外至るところで目に触れるうえ、この図上各線の色と、同じ色に塗られた電車が、実際の線路上で見られる。これは、路線案内の二重サービスである。しかし、このありがた味を利用者は、見慣れすぎて感じていないように見受けられる。

電車の塗装は、本来電車保護にあるが、各社それぞれの独自性の表現でもあり、通常一定時期一例である。その例外がJRと地下鉄である。この2線域では、さらに乗り入れ社数により、色数が増え、世界に例を見ないカラフルな電車にゆき合う東京となる。

JRでは、昭和25(1950)年3月東海道線の電化域沼津までの電車化にあたり、湘南電車と通称の、オレンジと緑の2段塗りわけ新車群が登場して以降、各線別カラー化が開始された。なお、このミカン色全面塗装は以来50年以上継続されたが近々廃止と聞く。この湘南電車出現までは鋼製車時代以降、ブレーキ鉄片飛散による錆の付着と、同色の錆色塗装で統一されていた。路線による色差は、まったく見られなかった。敗戦後も、10年ほど通勤対策のための戦時型車両が増備され、これらはみな戦前からのチョコレート単一塗装であり続けた。湘南電車に続けて横須賀線に新車が投入された折に今も続くクリームと紺の2段塗装となったが、通勤線のカラー化は、少し遅れ、昭和32(1957)年、中央線で朱色の新車群に代えられて以来、各線別色彩が軌道に乗る。



飯田線の湘南色と横須賀色。かつての東京駅を思い出させる。(インターネットサイト「懐かしの日本国有鉄道」より)



東京の地下鉄路線図(1997.12 現在)
曲線の表現が多いこの種の図で、永らく角張った直線の表現がユニークであった。近ごろなしくずしに角がとれて平凡なものとした。この図の色と同じ色の地下鉄が路線別に走る東京。JRでもほぼ同様。

地下鉄の線別色彩は、JRと事情が異なる。東京の地下鉄はJR各線の分布とは相違し、敗戦以前、現在の銀座線1本しかなかった。現在のような複雑な地下鉄網は、戦後丸の内線の建設からはじまり拡大された結果であり、銀座線の黄色に対し、丸の内線が対照的な色彩として明るい赤、バーミリオンを選ぶことから以後新線毎に、デザイナーの助言を得て車両と路線図の色線を一体化して選択し、半蔵門線の紫、有楽町線まで進んできている。

それにしても、共産圏で共通する濃緑に黄帯という画一的色彩傾向からみて、日本はその対極にある。中国がその単一化を抜け出し、文革後新形式車毎に対照的塗り分け実施している。本家のロシアにも明るいコバルト色新車が見られるようになった。日本の新傾向としては、私鉄の固有色から各社の一般新車出現



にあたり新塗装があちこちに見られるようになった。今後路線図カラーと一致する車両色というサービスは、どの方向に歩むのだろうか。

オールアルミになる以前の地下鉄丸の内線。

ICICニュース Vol.10 No.4通巻36号
発行年月日:2006年(平成18年)3月1日
編集・発行:財団法人 地図情報センター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5
神保町センタービル5階
Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872
<http://www.soc.nii.ac.jp/icic/>
E-mail icic_map@yahoo.co.jp